

2005 年度評議員会 議事録

日 時 2006 年 (平成 18 年) 3 月 24 日 (金) 18 時 30 分 ~ 20 時 00 分

場 所 ホテルグランコート名古屋 (5 階 ローズルーム)

〒460-0023 名古屋市中区金山町 1-1-1

TEL : (052) 683-4111

評議員現在数 : 220 名

出席評議員数 : 188 名、委任状出席 22 名

その他出席者 : 名誉会員 9 名、特別会員 14 名、千田彰一

. 議 事

第 1 号議案 2005 年度事業報告

2003・2004 年度会費未納による退会会員報告 (追認)

第 2 号議案 2004 年度収支決算報告 (追認)

第 3 号議案 2005 年度収支予算の修正に関する件

第 4 号議案 2006 年度事業報告及び収支予算承認

第 5 号議案 「(社)日本循環器学会会計処理規程」の変更に関する件

第 6 号議案 定款変更に関する件

第 7 号議案 理事・監事の選出

第 8 号議案 循環器専門医制度に関する件

第 9 号議案 委員会報告

第 10 号議案 新評議員・新正会員代表の選任に関する件

第 11 号議案 新名誉会員・新特別会員の報告

第 12 号議案 第 70・71 回学術集會会長挨拶

第 13 号議案 その他

. 議事の経過及び結果

定刻になり、第 70 回藤原久義会長から評議員現在数及び出席評議員数を報告、定数を満たしたので会議の成立が確認され、定款第 26 条の定めにより藤原会長が議長となり開会。資料にある 20 名の物故会員に対し、黙禱が捧げられた。

続いて議長から議事録署名人に北畠、横山両理事を指名し了承され、議事に入った。

第 1 号議案 2005 年度事業報告

2003・2004 年度会費未納による退会会員報告 (追認)

議長から、2005 年度における事業の概要について、資料のとおり報告された。続いて、2003・2004 年度会費が未納である会員 286 名について経過が説明され、これらの会員の退会について承認された。

第 2 号議案 2004 年度収支決算報告（追認）

議長より、2004 年度の一般会計、専門医特別会計及び学術集会特別会計、各支部収支について、昨年 6 月理事会にて承認され、既に会告にて会員へ通知している旨報告があり、追認された。

第 3 号議案 2005 年度収支予算の修正に関する件

議長より、当初予算に未計上であった事業収支の予算修正が、今年 1 月理事会及び先の評議員会で承認された旨説明があり、追認された。

第 4 号議案 2006 年度事業計画及び収支予算承認

議長より、資料の通り 2006 年度事業計画が説明され、承認された。続いて、各委員会の事業計画に基づき作成された 2006 年度収支予算原案について、今年 1 月理事会で承認された旨報告があり、承認された。また、横山光宏財務委員長より予算立案に際しては、本年より設立された予算委員会での収支精査を受けた旨報告があった。

第 5 号議案 「(社)日本循環器学会会計処理規程」の変更に関する件

議長より、2006 年 4 月から公益法人会計基準が改定されることに伴い、「(社)日本循環器学会会計処理規程」を一部変更し、既に理事会で承認されている旨報告があり、承認された。

第 6 号議案 定款変更に関する件

議長より、事務局の移転に伴う定款第二条（主たる事務所）の変更について提案があり、異義無く承認された。

第 7 号議案 理事・監事の選出

議長より、2006 年度就任の理事及び監事について、選挙を行う旨指示があった。地区別定数による連記・無記名投票の結果、2006 年度就任の理事及び監事が次の通り選出された。なお任期は 2006 年 3 月 26 日から 2007 年度総会開催日までである。

<理事> 島本和明、奥村 謙、和泉 徹、小川 聡、笠貫 宏、永井良三、水野杏一、山口 徹、
児玉逸雄、藤原久義、高田重男、北 徹、友池仁暢、堀 正二、堀江 稔、横山光宏、
松崎益徳、土居義典、小川久雄、鄭 忠和

<監事> 今泉 勉、島田和幸

新理事長は、新理事による互選の結果、山口 徹理事が選ばれた旨報告された。

以上について、承認された。

第 8 号議案 循環器専門医制度に関する件

白土委員長より以下の通り報告があった。

「日本循環器学会認定循環器専門医制度規則」の第 1 章第 3 条に「但し、合否通知は合否決定後、速やかに行う」が追加された。

2005 年 8 月 26 日に実施された第 16 回循環器専門医認定審査試験の合格者 605 名について循環器専門医として認定する旨報告された。

以上について承認された。

第 9 号議案 委員会報告

次の 4 委員会について、議長より委員会報告が行われた。その他の委員会報告に関しては、資料に掲載されているので見ていただくよう、議長から説明があった。

1) 学術委員会

堀学術委員会委員長から以下の通り、報告があった。

循環器病の診断と治療に関するガイドラインについて 5 年毎に改訂をするという基本方針で全面改訂と部分改訂を行っている。改訂版は原則としてホームページに掲載されることになっており、Supplement として会員への配布は行っていない。

学術集会会期中に既刊ガイドラインダイジェスト版のポケット版を作成して、無料配布している。

J-RHYTHM 以下 6 つの大規模臨床試験の後援を行い、専門医の研修単位付与や参画施設への認定証交付を行っている。

循環器疾患診療実態調査(主査:吉川純一先生)について、循環器を標榜している施設に対して Web 上での調査を行った。

キシロカイン誤用の緊急通告を行った。

厚労省からの依頼により、重篤副作用疾患別対応マニュアルを作成する。心室頻拍、うっ血性心不全について、副作用の逆引き事典のようなものを 2006 年度に作成する。

2) 国際交流委員会

小川国際交流委員長から以下の通り、報告があった。

国際留学生 YIA の受賞者を今年も決定した。

資料の通り 7 名の先生を国際名誉会員として決定した。

APSC 事務局を日本循環器学会事務局内に設置した。

2009 年の APCC について、北畠顕先生を会長として日本で開催する。

WCC の 2012 年あるいは 14 年を日本に招致するため、WCC 招致準備委員会を設置して活動している。

3) 資料編纂小委員会

藤原委員長より次の通り報告があった。

日本循環器学会の70年の歴史について資料収集を行い、70回記念学術集会にて記念展示を行った。

70年の記念冊子として、『日本循環器学会70年のあゆみ(仮)』を本年7月に発行する予定である。

4) 用語委員会

山口巖委員長から次の通り報告があった。

今回作業中の『循環器学用語集』第3版については、2003年度末に企画編集作業を開始したが、2006年8月上旬に完成の見込みである。

今回の編集作業では、循環器関連学会が「循環器学用語合同委員会」として共同で作業にあたり、学会間での用語の不統一などが起こらないように留意している。

最終的な本の体裁は、544頁、単語数3万4千語となった。

以上の委員会報告および資料に掲載されている他の委員会報告について、一括して承認された。

第10号議案 新評議員・新正会員代表の選任に関する件

議長より、65歳定年制により2005年度末で退任された評議員・正会員代表に替わって、新しく2006年度より就任する評議員と正会員代表が資料の通り報告され、承認された。

第11号議案 新名誉会員・新特別会員の報告

議長より、北畠顕先生・北村惣一郎先生・日野原重明先生を2006年度の名誉会員として理事会が推薦している旨報告があり、承認された。なお、本年度は特別会員の推薦はなかった。

第12号議案 第70・71回学術集会会長挨拶

1) 第71回学術集会報告

横山光宏会長から次の通り報告があった。

会期は2007年3月15日(木)~17日(土)とし、神戸国際会議場、ポートピアホテルを中心に開催する。

メインテーマを「国際化時代の循環器学の新たな展開」とし、「アジア諸国との交流」「学問の分化と統合」「治療から予防へ」「チーム医療」「社会への貢献」の5キーワードを選んだ。

プレナリーセッション、シンポジウム、ジョイントシンポジウムのタイトルや教育セッションのテーマも決定している。

美甘レクチャー、真下レクチャー、特別講演についても資料に記載の通りである。

2) 第72回学術集会報告

第72回学術集会会長として松崎益徳先生(山口大学器官病態内科学)が承認された。続いて松崎益徳会長より、会期を2008年3月28日(金)~30日(土)とし、福岡国際会議場、福岡サンパレス、マリンメッセ福岡を中心に開催する旨、報告された。

第 13 号議案 その他

議長より、日野原重明特別会員は本学会の第 1 回学会から出席されており、学会への貢献への感謝として賞状他を第 70 回会長より贈呈したい旨提案があり、承認された。

以上をもって本日の議事を終了し、議長が長時間の協力に謝辞を述べて閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長ならびに議事録署名人、これに署名押印する。

2006 年 3 月 24 日

社団法人 日本循環器学会 2005 年度評議員会

議 長 藤 原 久 義

議事録署名人 北 畠 顕

同 横 山 光 宏